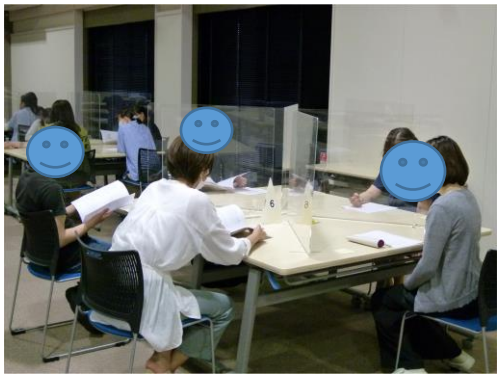
R3 年６月３日(木)

テーマ ： 新人看護職員への指導場面におけるポイント
講　師 ： 水田　真由美先生　　和歌山県立医科大学保健看護学部
学科長・教授
場　所 ： 看護研修センター
参加者 ： 37 名

ねらい：指導者の役割を理解し、効果的な指導ができるための知識・技術を習得する。

午前は講義と前後の座席２名でのワークを実施した。
講義中に講師が参加者にマイクを向けてひとりひとりに聞きながら進行した。

参加者は緊張しながらも、いい刺激になったのではないでしょうか。



午後からはグループワークを実施。
「新人を育てるにはどのような職場が良いか」というテーマで討議して発表を行った。

【参加者の声】

今回学んだ指導方法を取り入れながら、私も成長していけたらと思いました。看護が好きになってもらえるよう、いろんな経験を一緒にしていきたい。

指導方法について、大きな学びがあったようだ。

研修番号【45】　研修会名「　医療安全とレジリエンスエンジニアリング　」
開催日　　令和３年６月７日（月）
　講師　　上尾中央総合病院　特任副院長　　長谷川　剛　先生
　場所　　看護研修センター（大ホール）
参加者　　21 名

今回の研修会では、レジリエンスという考え方、ヒューマンエラー、ノンテクニカルスキル、ポジティブアプローチという観点で安全とは何かということを学びました。
レジリエンスエンジニアリングにより、人間と組織の柔軟性が危険なシステムを安全に機能させているという考えをチームや組織で共有することの大切さを教えていただきました。

医療安全の視点から捉えたレジリエンスの重要性について、チームや組織にどう活用できるかなど、自施設での今後の課題に取り組みたいなどの受講者の声もあり、研修会は有意義な時間となりました。

研修番号【35】　研修会名　「　災害看護　」
開催日　　令和３年６月 19 日（土）
　講師　　Hospitality　support 和心　所長　　黒澤　和子　先生
　場所　　看護研修センター　（研修室２）
参加者　　15 名

今回の研修会では災害看護に必要な最新知識とこれからの災害に備えて、災害支援ナースの役割と育成についての講義や実際の現場で実践できるシュミレーションとして意思決定ワークの演習も行われました。
その場その場の状況判断や限られた環境・資源のなかでどのような工夫をするのか、災害看護は普段の実践の延長上であるということ、目的意識を持って取り組むことが大切であるということを学びました。

また東日本大震災から 10 年が経ち、黒澤先生のこれまでの福島県南相馬市の医療連携の活動報告のなかで、支援と受援について「今、何が必要で何が求められているのか相手のニーズに応える支援をしていかなければいけない」ということを伝えられ、より一層災害に対する意識が深まった研修会でした。

R3 年 6 月 20 日(日)

テーマ ： ステップ２　深める看護研究・クリティーク
講　師 ： 辻　あさみ先生　　和歌山県立医科大学保健看護学部
教授
場　所 ： ビッグＵ（田辺市）
参加者 ： 会場参加者　６名
Web 参加者　４名（3 施設）

ねらい：研究を深めていくためにクリティークを行うことで、論文の書き方が理解できる。

今回の研修は、ビッグＵでの集合研修と Web 参加を選べる研修として受付を行った。

看護研究を行うために、クリティークすることで、より良い論文を書けるように「クリティークとは」から「実際の論文をクリティークする」ことまでの研修だった。

コロナ禍であり、演習は個人ワークで実施した。

実際の論文を題材として、
①各自全体をクリティーク
②「はじめに」から「結論」まで担当を決めて、クリティーク
③担当毎に発表

【参加者の声】
具体的な作業を通して、自分の研究を進める上で考えの視点や手順が理解しやすかった。
クリティークを「あら捜し」ではなく、クリティカル・シンキングの能力を身につけたい。

などの前向きな意見が多かった。

R3 年 6 月 22 日(火)

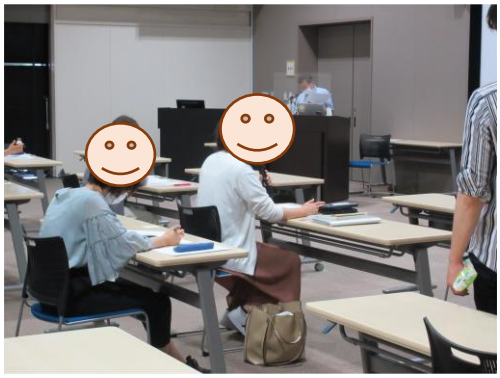
テーマ ： 人に伝わる分かりやすい文章の書き方（初級編）
講　師 ： 平松　正昭先生　　和歌山信愛大学・信愛女子短期大学
非常勤講師
関西医療大学　理事
場　所 ： 看護研修センター
参加者 ： 会場参加者　　17 名
Web 参加者　　７名（3 施設）

ねらい：文章を人に伝わるように分かりやすくかく技術を習得する。
起承転結を用いた基本的な文章構成を学ぶ。

６月は、会場での集合研修と、Web 参加を選べる研修会が多かった。この研修会も選択受講が可能な研修であった。

午前・午後を通して、講義と個人ワーク、発表の繰り返しで進行。

いろいろな場面でのよくない例文を「だめな理由」を考え発表する。
その後、模範文例を示し「よい理由」を考えて発表した。



【参加者の声】
文章を型に当てはめる事で文章が得意になった気がする。
三分法をどんどん取り入れて書こうと思う。

など苦手だった文章の書き方が、分かりやすい文章を書くことができるようになった研修会だった。

筆者の文章が一番分りにくいかもと反省している。

R3 年 6 月 27 日(日)

テーマ ： 自分に優しくなる！相手に優しくなれる！メンタルヘルスケア
～生き生きと働き続けるために～
講　師 ： 武用　百子先生　　大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
教授　精神看護専門看護師
場　所 ： 看護研修センター
参加者 ： 会場参加者　　23 名
Web 参加者　13 名（7 施設）

ねらい：看護現場は、様々な仕事の中でも最もストレスの大きい職場の 1 つと言われている。「看護師が抱えるストレスへの適切な対処法」を学び、ストレスを正しく理解し、自分なりのストレスケアの方法を知ることを学ぶ。

今回の研修は、看護研修センターでの集合研修と、Web 参加を選べる研修として受付を行った。

午前は、自分の状態を知るためのエクササイズから始まる。

午後からはロールプレイを交えてのグループワーク。身を乗り出して演じてくれる参加者もいた。
Web 参加者は、同施設で複数人の参加グループと 1 名での参加施設は連合グループで講師がファシリテーターを行いながら実施。

【参加者の声】
自分を思いやる事について等とても自分の気持ちを楽にしてくれた。
本人が自分の思いに気づくことで自分の思いを表出できるような声かけができるように、その上でしっかり聴いていけるように力をつけたい。

など、様々なストレスに対する対処方法がわかり、今回の研修のねらいを自分のものにできたようだ。

研修番号【9】　研修会名「　目指そう笑顔で対応～認知症状、せん妄症状への対応～　」

開催日　　令和３年６月 29 日（火）

講師　　北出病院　認知症看護認定看護師　　堅田　弥生　先生

場所　　看護研修センター（大ホール）

参加者　　49 名

2020 年の 65 歳以上の６人に１人は認知症患者と言われており、高齢化の進展により認知症看護の捉え方も変化してきています。今回の研修会では病態を理解し、さらに認知症患者が体験している世界を知っていくことや持てる力を引き出していくことも看護の対応として必要であることを学びました。

午後からはグループワークを聞き、認知症患者を持つ看護支援や、せん妄に対する事例検討などのテーマについて討論が行われ、発表では各グループから活発な意見が出たりと有意義な時間となりました。
また、ユマニチュードという包括的コミュニケーション技法を学ぶ機会となり興味深い内容でした。